

第6章 事業に係る環境影響の 総合的な評価

第6章 事業に係る環境影響の総合的な評価

事業計画に係る複数案は、複数案（事業の規模）、複数案（住宅の構造・配置）とし、跡地活用想定区域の施設の供用時における大気質、騒音、振動及び新市営住宅（みずほ（西）地区）の存在における日照阻害の環境影響について検討を行った。

環境要素ごとの環境影響が考えられる内容と、事業計画における環境配慮の概要を表6-1～表6-4にまとめた。

表 6-1(1) 環境影響の総合的な評価（大気質）

環境要素	影響要因		調査項目	調査結果の概要	予測項目及び予測方法									
大気質	土地又は工作物の存在及び供用	自動車の走行	<p>(1)大気質の状況</p> <p>①二酸化窒素</p> <p>②浮遊粒子状物質</p> <p>(2)自然的・社会的状況</p> <p>①気象</p> <p>②基準等</p> <p>③自動車交通量等</p>	<p>(1)大気質の状況</p> <p>①二酸化窒素</p> <p>最寄りで測定している一般環境大気測定局の厚別局では令和5年度の年間98%値が0.028ppmであり、環境基準(0.06ppm)を満足しており、直近5年度も環境基準を満足していた。</p> <p>②浮遊粒子状物質</p> <p>市内最寄りで測定している一般環境大気測定局のセンター測定局では令和5年度の年間2%除外値が0.022mg/m³であり、環境基準(0.10mg/m³)を満足していた。直近5年度も環境基準を満足していた。</p> <p>(2)自然的・社会的状況</p> <p>①気象</p> <p>令和7年の最多風向は南東であり、平均風速は3.3m/sであった。</p> <p>②規制等</p> <p>「大気汚染に係る環境基準」が適用される。</p> <p>・大気汚染に係る環境基準</p> <table border="1" data-bbox="767 1196 1147 1330"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>基準値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化窒素</td> <td>ppm</td> <td>0.06以下</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質</td> <td>mg/m³</td> <td>0.10以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>③自動車交通量等</p> <p>厚別東通の最寄り測定地点において令和2年の平日12時間交通量が10,538台、一般国道274号の最寄り測定地点において令和3年の平日24時間交通量が34,469台、一般国道12号の最寄り測定地点における令和3年の平日24時間交通量が30,260台であった。</p>	項目	単位	基準値	二酸化窒素	ppm	0.06以下	浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.10以下	<p>(1)予測項目</p> <p>①二酸化窒素</p> <p>②浮遊粒子状物質</p> <p>(2)予測方法</p> <p>地上気象、将来の交通量、道路構造等を予測条件として「大気拡散式(プルーム式、パフ式)」により定量的に大気質濃度を予測する方法とした。</p>
項目	単位	基準値												
二酸化窒素	ppm	0.06以下												
浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.10以下												

表 6-1(2) 環境影響の総合的な評価（大気質）

予測結果の概要	評価結果の概要	必要な配慮事項																																																																																		
<p>(1)変化の程度 道路敷地境界において、現況と将来で大きな変化はなく、規模 A 案と規模 B 案で大きな差は生じないと予測された。</p> <p>・ 二酸化窒素濃度年平均値(ppm)</p> <table border="1" data-bbox="199 497 635 696"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th rowspan="2">現況</th> <th colspan="2">将来</th> </tr> <tr> <th>規模 A 案</th> <th>規模 B 案</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>T-1</td> <td>0.01027</td> <td>0.01040</td> <td>0.01044</td> </tr> <tr> <td>T-2</td> <td>0.01108</td> <td>0.01119</td> <td>0.01122</td> </tr> <tr> <td>T-3</td> <td>0.01015</td> <td>0.01017</td> <td>0.01018</td> </tr> <tr> <td>T-4</td> <td>0.01021</td> <td>0.01023</td> <td>0.01024</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 2つの道路敷地境界のうち最大値の予測結果を記載した。</p> <p>・ 浮遊粒子状物質濃度年平均値(mg/m³)</p> <table border="1" data-bbox="199 808 635 1008"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th rowspan="2">現況</th> <th colspan="2">将来</th> </tr> <tr> <th>規模 A 案</th> <th>規模 B 案</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>T-1</td> <td>0.00902</td> <td>0.00903</td> <td>0.00903</td> </tr> <tr> <td>T-2</td> <td>0.00905</td> <td>0.00905</td> <td>0.00906</td> </tr> <tr> <td>T-3</td> <td>0.00901</td> <td>0.00901</td> <td>0.00901</td> </tr> <tr> <td>T-4</td> <td>0.00901</td> <td>0.00902</td> <td>0.00902</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 2つの道路敷地境界のうち最大値の予測結果を記載した。</p> <p>(2)変化の及ぶ範囲 道路敷地境界から 20m の範囲内において、現況と将来で大きな変化はなく、規模 A 案と規模 B 案で大きな差は生じないと予測された。</p>	予測地点	現況	将来		規模 A 案	規模 B 案	T-1	0.01027	0.01040	0.01044	T-2	0.01108	0.01119	0.01122	T-3	0.01015	0.01017	0.01018	T-4	0.01021	0.01023	0.01024	予測地点	現況	将来		規模 A 案	規模 B 案	T-1	0.00902	0.00903	0.00903	T-2	0.00905	0.00905	0.00906	T-3	0.00901	0.00901	0.00901	T-4	0.00901	0.00902	0.00902	<p>二酸化窒素、浮遊粒子状物質の濃度の予測結果は、規模 A 案と規模 B 案でほとんど差はない。また、全ての項目で評価指標である「大気汚染に係る環境基準」における基準値を満足しており、跡地活用想定区域の施設の供用時において周辺環境は保全目標に適合するものと評価する。</p> <p>・ 二酸化窒素濃度 98%値(ppm)</p> <table border="1" data-bbox="683 593 1118 792"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">将来</th> <th rowspan="2">環境基準</th> </tr> <tr> <th>規模 A 案</th> <th>規模 B 案</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>T-1</td> <td>0.02319</td> <td>0.02323</td> <td rowspan="4">0.06</td> </tr> <tr> <td>T-2</td> <td>0.02415</td> <td>0.02419</td> </tr> <tr> <td>T-3</td> <td>0.02291</td> <td>0.02292</td> </tr> <tr> <td>T-4</td> <td>0.02298</td> <td>0.02300</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 2つの道路敷地境界のうち最大値の予測結果を記載した。</p> <p>・ 浮遊粒子状物質濃度 2%除外値(mg/m³)</p> <table border="1" data-bbox="683 904 1118 1104"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">将来</th> <th rowspan="2">環境基準</th> </tr> <tr> <th>規模 A 案</th> <th>規模 B 案</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>T-1</td> <td>0.02647</td> <td>0.02647</td> <td rowspan="4">0.10</td> </tr> <tr> <td>T-2</td> <td>0.02650</td> <td>0.02651</td> </tr> <tr> <td>T-3</td> <td>0.02644</td> <td>0.02644</td> </tr> <tr> <td>T-4</td> <td>0.02644</td> <td>0.02644</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 2つの道路敷地境界のうち最大値の予測結果を記載した。</p>	予測地点	将来		環境基準	規模 A 案	規模 B 案	T-1	0.02319	0.02323	0.06	T-2	0.02415	0.02419	T-3	0.02291	0.02292	T-4	0.02298	0.02300	予測地点	将来		環境基準	規模 A 案	規模 B 案	T-1	0.02647	0.02647	0.10	T-2	0.02650	0.02651	T-3	0.02644	0.02644	T-4	0.02644	0.02644	<p>二酸化窒素、浮遊粒子状物質の濃度は基準を満足し、規模 A 案と規模 B 案で有為な差は確認されないが跡地活用想定区域に導入される施設規模において適切な計画、事業の実施が必要である。</p>
予測地点			現況	将来																																																																																
	規模 A 案	規模 B 案																																																																																		
T-1	0.01027	0.01040	0.01044																																																																																	
T-2	0.01108	0.01119	0.01122																																																																																	
T-3	0.01015	0.01017	0.01018																																																																																	
T-4	0.01021	0.01023	0.01024																																																																																	
予測地点	現況	将来																																																																																		
		規模 A 案	規模 B 案																																																																																	
T-1	0.00902	0.00903	0.00903																																																																																	
T-2	0.00905	0.00905	0.00906																																																																																	
T-3	0.00901	0.00901	0.00901																																																																																	
T-4	0.00901	0.00902	0.00902																																																																																	
予測地点	将来		環境基準																																																																																	
	規模 A 案	規模 B 案																																																																																		
T-1	0.02319	0.02323	0.06																																																																																	
T-2	0.02415	0.02419																																																																																		
T-3	0.02291	0.02292																																																																																		
T-4	0.02298	0.02300																																																																																		
予測地点	将来		環境基準																																																																																	
	規模 A 案	規模 B 案																																																																																		
T-1	0.02647	0.02647	0.10																																																																																	
T-2	0.02650	0.02651																																																																																		
T-3	0.02644	0.02644																																																																																		
T-4	0.02644	0.02644																																																																																		

表 6-2(1) 環境影響の総合的な評価（騒音）

環境要素	影響要因	調査項目	調査結果の概要	予測項目及び予測方法																									
騒音	土地又は工作物の存在及び供用 自動車の走行	(1)騒音の状況 ①自動車騒音 (2)自然的・社会的状況 ①基準等 ②自動車交通量等	<p>(1)騒音の状況 ①自動車騒音 事業実施想定区域に位置する厚別東通では、令和5年度の等価騒音レベルは昼間で66dB、夜間で59dBであり、「自動車騒音に係る要請限度」におけるc区域の要請限度（昼間：75dB、夜間：70dB）及び「騒音に係る環境基準」における幹線交通を担う道路に近接する空間の基準値（昼間：70dB、夜間：65dB）を満足していた。</p> <p>(2)自然的・社会的状況 ①規制等 「自動車騒音に係る要請限度」及び「騒音に係る環境基準」が適用される。</p> <p>・自動車騒音に係る要請限度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">基準値 (dB)</th> </tr> <tr> <th>昼間</th> <th>夜間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a 区域 (2車線以上)</td> <td>70</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>b 区域 (2車線以上)</td> <td>75</td> <td>70</td> </tr> </tbody> </table> <p>・騒音に係る環境基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">基準値 (dB)</th> </tr> <tr> <th>昼間</th> <th>夜間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幹線交通を担う道路に近接する空間</td> <td>70</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>A 地域 (道路に面する地域)</td> <td>60</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>B 地域 (道路に面する地域)</td> <td>65</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table> <p>②自動車交通量等 厚別東通の最寄り測定地点において令和2年度の平日12時間交通量が10,538台、一般国道274号の最寄り測定地点において令和3年度の平日24時間交通量が34,469台、一般国道12号の最寄り測定地点における令和3年度の平日24時間交通量が30,260台であった。</p>	項目	基準値 (dB)		昼間	夜間	a 区域 (2車線以上)	70	65	b 区域 (2車線以上)	75	70	項目	基準値 (dB)		昼間	夜間	幹線交通を担う道路に近接する空間	70	65	A 地域 (道路に面する地域)	60	55	B 地域 (道路に面する地域)	65	60	<p>(1)予測項目 ①騒音レベル</p> <p>(2)予測方法 将来の交通量、道路構造等を予測条件として「自動車騒音に係る予測モデル(ASJ RTN-Model 2023¹⁾)」により定量的に騒音レベルを予測する定量的な方法とした。</p>
項目	基準値 (dB)																												
	昼間	夜間																											
a 区域 (2車線以上)	70	65																											
b 区域 (2車線以上)	75	70																											
項目	基準値 (dB)																												
	昼間	夜間																											
幹線交通を担う道路に近接する空間	70	65																											
A 地域 (道路に面する地域)	60	55																											
B 地域 (道路に面する地域)	65	60																											

1) 日本音響学会道路交通騒音調査研究委員会「道路交通騒音の予測モデル“ASJ RTN-Model 2023”」
(令和5年4月)

表 6-2(2) 環境影響の総合的な評価（騒音）

予測結果の概要	評価結果の概要	必要な配慮事項																																																																																																																																		
<p>(1) 変化の程度</p> <p>道路敷地境界において、現況から将来で騒音レベルは昼間の時間区分で最大 3dB、夜間の時間区分で最大 1dB 増加すると予測された。また、規模 A 案に対し B 案は昼間の時間区分で最大 1dB 高くなるが大きな差はないと予測された。</p> <p>・昼間の時間区分（6 時～22 時）の等価騒音レベル (dB)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th rowspan="2">現況</th> <th colspan="2">将来</th> </tr> <tr> <th>規模 A 案</th> <th>規模 B 案</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>T-1</td> <td>65～66[*]</td> <td>68</td> <td>68</td> </tr> <tr> <td>T-2</td> <td>67</td> <td>67～68[*]</td> <td>67～68[*]</td> </tr> <tr> <td>T-3</td> <td>62～63[*]</td> <td>63</td> <td>63～64[*]</td> </tr> <tr> <td>T-4</td> <td>60～64[*]</td> <td>60～65[*]</td> <td>61～65[*]</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 2つの道路敷地境界、予測高さにおける予測結果の範囲を記載した。</p> <p>・夜間の時間区分（22 時～翌 6 時）の等価騒音レベル (dB)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th rowspan="2">現況</th> <th colspan="2">将来</th> </tr> <tr> <th>規模 A 案</th> <th>規模 B 案</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>T-1</td> <td>57～58[*]</td> <td>58</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>T-2</td> <td>59～60[*]</td> <td>59～60[*]</td> <td>59～60[*]</td> </tr> <tr> <td>T-3</td> <td>54～55[*]</td> <td>54～55[*]</td> <td>54～55[*]</td> </tr> <tr> <td>T-4</td> <td>52～56[*]</td> <td>52～56[*]</td> <td>52～56[*]</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 2つの道路敷地境界、予測高さにおける予測結果の範囲を記載した。</p> <p>(2) 変化の及ぶ範囲</p> <p>道路敷地境界から 20m の範囲内において、道路敷地境界の距離が遠いほど騒音レベルが低くなると予測された。</p> <p>また、現況から跡地活用想定区域の施設が供用された将来では騒音レベルが昼間の時間区分で最大 3dB、夜間の時間区分で最大 1dB 増加すると予測された。</p> <p>複数案（事業の規模）の比較は、規模 A 案に対し規模 B 案は騒音レベルが 1dB 増加する可能性があるが大きな差はないと予測された。</p>	予測地点	現況	将来		規模 A 案	規模 B 案	T-1	65～66 [*]	68	68	T-2	67	67～68 [*]	67～68 [*]	T-3	62～63 [*]	63	63～64 [*]	T-4	60～64 [*]	60～65 [*]	61～65 [*]	予測地点	現況	将来		規模 A 案	規模 B 案	T-1	57～58 [*]	58	58	T-2	59～60 [*]	59～60 [*]	59～60 [*]	T-3	54～55 [*]	54～55 [*]	54～55 [*]	T-4	52～56 [*]	52～56 [*]	52～56 [*]	<p>騒音レベルの予測結果は、規模 A 案と規模 B 案で大きな差はない。また、全ての項目で評価指標である「騒音に係る環境基準」を満足しており、跡地活用想定区域の施設の供用時において周辺環境は保全目標に適合するものと評価する。</p> <p>・昼間の時間区分（6 時～22 時）の等価騒音レベル (dB)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">予測地点</th> <th colspan="4">道路敷地境界からの距離 (m)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">将来 (規模 A 案)</th> <th colspan="2">将来 (規模 B 案)</th> </tr> <tr> <th>0</th> <th>20</th> <th>0</th> <th>20</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>T-1</td> <td>68</td> <td>64</td> <td>68</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>T-2</td> <td>68</td> <td>63</td> <td>68</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>T-3</td> <td>63</td> <td>58</td> <td>64</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>T-4</td> <td>65</td> <td>60</td> <td>65</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>基準値 (T-1～T-3)</td> <td>70</td> <td>65</td> <td>70</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>基準値 (T-4)</td> <td>70</td> <td>60</td> <td>70</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 2つの道路敷地境界、測定高さのうち最大値の予測結果を記載した。</p> <p>・夜間の時間区分（22 時～翌 6 時）の等価騒音レベル (dB)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">予測地点</th> <th colspan="4">道路敷地境界からの距離 (m)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">将来 (規模 A 案)</th> <th colspan="2">将来 (規模 B 案)</th> </tr> <tr> <th>0</th> <th>20</th> <th>0</th> <th>20</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>T-1</td> <td>58</td> <td>54</td> <td>58</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>T-2</td> <td>60</td> <td>55</td> <td>60</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>T-3</td> <td>55</td> <td>50</td> <td>55</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>T-4</td> <td>56</td> <td>51</td> <td>56</td> <td>51</td> </tr> <tr> <td>基準値 (T-1～T-3)</td> <td>65</td> <td>60</td> <td>65</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>基準値 (T-4)</td> <td>65</td> <td>55</td> <td>65</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 2つの道路敷地境界、測定高さのうち最大値の予測結果を記載した。</p>	予測地点	道路敷地境界からの距離 (m)				将来 (規模 A 案)		将来 (規模 B 案)		0	20	0	20	T-1	68	64	68	64	T-2	68	63	68	63	T-3	63	58	64	59	T-4	65	60	65	60	基準値 (T-1～T-3)	70	65	70	65	基準値 (T-4)	70	60	70	60	予測地点	道路敷地境界からの距離 (m)				将来 (規模 A 案)		将来 (規模 B 案)		0	20	0	20	T-1	58	54	58	54	T-2	60	55	60	54	T-3	55	50	55	50	T-4	56	51	56	51	基準値 (T-1～T-3)	65	60	65	60	基準値 (T-4)	65	55	65	55	<p>騒音レベルは基準を満足し、規模 A 案と規模 B 案で大きな差は確認されないが、規模 A 案に対し規模 B 案は騒音レベルが高く予測されたことから、跡地活用想定区域に導入される施設規模において適切な計画、事業の実施が必要である。</p>
予測地点			現況	将来																																																																																																																																
	規模 A 案	規模 B 案																																																																																																																																		
T-1	65～66 [*]	68	68																																																																																																																																	
T-2	67	67～68 [*]	67～68 [*]																																																																																																																																	
T-3	62～63 [*]	63	63～64 [*]																																																																																																																																	
T-4	60～64 [*]	60～65 [*]	61～65 [*]																																																																																																																																	
予測地点	現況	将来																																																																																																																																		
		規模 A 案	規模 B 案																																																																																																																																	
T-1	57～58 [*]	58	58																																																																																																																																	
T-2	59～60 [*]	59～60 [*]	59～60 [*]																																																																																																																																	
T-3	54～55 [*]	54～55 [*]	54～55 [*]																																																																																																																																	
T-4	52～56 [*]	52～56 [*]	52～56 [*]																																																																																																																																	
予測地点	道路敷地境界からの距離 (m)																																																																																																																																			
	将来 (規模 A 案)		将来 (規模 B 案)																																																																																																																																	
	0	20	0	20																																																																																																																																
T-1	68	64	68	64																																																																																																																																
T-2	68	63	68	63																																																																																																																																
T-3	63	58	64	59																																																																																																																																
T-4	65	60	65	60																																																																																																																																
基準値 (T-1～T-3)	70	65	70	65																																																																																																																																
基準値 (T-4)	70	60	70	60																																																																																																																																
予測地点	道路敷地境界からの距離 (m)																																																																																																																																			
	将来 (規模 A 案)		将来 (規模 B 案)																																																																																																																																	
	0	20	0	20																																																																																																																																
T-1	58	54	58	54																																																																																																																																
T-2	60	55	60	54																																																																																																																																
T-3	55	50	55	50																																																																																																																																
T-4	56	51	56	51																																																																																																																																
基準値 (T-1～T-3)	65	60	65	60																																																																																																																																
基準値 (T-4)	65	55	65	55																																																																																																																																

表 6-3(1) 環境影響の総合的な評価（振動）

環境要素	影響要因		調査項目	調査結果の概要	予測項目及び予測方法								
振動	土地又は工作物の存在及び供用	自動車の走行	<p>(1) 振動の状況 ① 自動車振動</p> <p>(2) 自然的・社会的状況 ① 規制等 ② 自動車交通量等</p>	<p>(1) 振動の状況 ① 自動車振動 最寄の測定地点である一般国道12号では、令和5年の振動レベルは昼間で42dB、夜間で36dBであり、「道路交通振動に係る要請限度」における第2種地域の要請限度（昼間：70dB、夜間：65dB）を満足していた。</p> <p>(2) 自然的・社会的状況 ① 規制等 「道路交通振動に係る要請限度」が適用される。</p> <p>・ 道路交通振動に係る要請限度</p> <table border="1" data-bbox="767 779 1144 913"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">基準値 (dB)</th> </tr> <tr> <th>昼間</th> <th>夜間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1種区域</td> <td>65</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 自動車交通量等 厚別東通において令和2年度の平日12時間交通量が10,538台、一般国道274号において令和3年度の平日24時間交通量が34,469台、一般国道12号における令和3年度の平日24時間交通量が30,260台であった。</p>	項目	基準値 (dB)		昼間	夜間	第1種区域	65	60	<p>(1) 予測項目 ① 振動レベル</p> <p>(2) 予測方法 将来の交通量、道路構造等を予測条件として「振動レベル八十パーセントレンジの上端値を予測するための式」により定量的に振動レベルを予測する方法とした。</p>
項目	基準値 (dB)												
	昼間	夜間											
第1種区域	65	60											

表 6-3(2) 環境影響の総合的な評価（振動）

予測結果の概要	評価結果の概要	必要な配慮事項																																																																										
<p>(1) 変化の程度 道路敷地境界において、現況から将来で振動レベルは昼間の時間区分で最大 3dB 増加し、夜間の時間区分では増加しないと予測された。また、規模 A 案に対し B 案は最大 1dB 高くなるが大きな差はないと予測された。</p> <p>・昼間の時間区分（8 時～19 時）の振動レベルの 80%レンジ上端値(dB)</p> <table border="1" data-bbox="209 591 644 792"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>現況</th> <th>将来 (A 案)</th> <th>将来 (B 案)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>T-1</td><td>45</td><td>47</td><td>48</td></tr> <tr><td>T-2</td><td>46</td><td>46</td><td>46</td></tr> <tr><td>T-3</td><td>41</td><td>42</td><td>43</td></tr> <tr><td>T-4</td><td>44</td><td>44</td><td>44</td></tr> </tbody> </table> <p>・夜間の時間区分（19 時～翌 8 時）の振動レベルの 80%レンジ上端値(dB)</p> <table border="1" data-bbox="209 887 644 1088"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>現況</th> <th>将来 (A 案)</th> <th>将来 (B 案)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>T-1</td><td>42</td><td>42</td><td>42</td></tr> <tr><td>T-2</td><td>45</td><td>45</td><td>45</td></tr> <tr><td>T-3</td><td>42</td><td>42</td><td>42</td></tr> <tr><td>T-4</td><td>44</td><td>44</td><td>44</td></tr> </tbody> </table> <p>(2) 道路敷地境界からの距離別予測結果 道路敷地境界から 20m の範囲内において、道路敷地境界の距離が遠いほど振動レベルが低くなると予測された。 また、現況から跡地活用想定区域の施設が供用された将来では振動レベルが昼間の時間区分で最大 3dB 増加し、夜間の時間区分で増加しないと予測された。 複数案（事業の規模）の比較は、規模 A 案に対し規模 B 案は振動レベルが 1dB 増加する可能性があるが大きな差はないと予測された。</p>	予測地点	現況	将来 (A 案)	将来 (B 案)	T-1	45	47	48	T-2	46	46	46	T-3	41	42	43	T-4	44	44	44	予測地点	現況	将来 (A 案)	将来 (B 案)	T-1	42	42	42	T-2	45	45	45	T-3	42	42	42	T-4	44	44	44	<p>振動レベルの予測結果は、規模 A 案と規模 B 案で大きな差はない。また、全ての項目で評価指標である「道路交通振動の要請限度」を満足しており、跡地活用想定区域の施設の供用時において周辺環境は保全目標に適合するものと評価する。</p> <p>・昼間の時間区分（8 時～19 時）の振動レベルの 80%レンジ上端値(dB)</p> <table border="1" data-bbox="700 562 1136 763"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>将来 (A 案)</th> <th>将来 (B 案)</th> <th>要請限度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>T-1</td><td>47</td><td>48</td><td rowspan="4">65</td></tr> <tr><td>T-2</td><td>46</td><td>46</td></tr> <tr><td>T-3</td><td>42</td><td>43</td></tr> <tr><td>T-4</td><td>44</td><td>44</td></tr> </tbody> </table> <p>・夜間の時間区分（19 時～翌 8 時）の振動レベルの 80%レンジ上端値(dB)</p> <table border="1" data-bbox="700 857 1136 1059"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>将来 (A 案)</th> <th>将来 (B 案)</th> <th>要請限度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>T-1</td><td>42</td><td>42</td><td rowspan="4">60</td></tr> <tr><td>T-2</td><td>45</td><td>45</td></tr> <tr><td>T-3</td><td>42</td><td>42</td></tr> <tr><td>T-4</td><td>44</td><td>44</td></tr> </tbody> </table>	予測地点	将来 (A 案)	将来 (B 案)	要請限度	T-1	47	48	65	T-2	46	46	T-3	42	43	T-4	44	44	予測地点	将来 (A 案)	将来 (B 案)	要請限度	T-1	42	42	60	T-2	45	45	T-3	42	42	T-4	44	44	<p>振動レベルは基準を満足し、規模 A 案と規模 B 案で大きな差は確認されないが、規模 A 案対し規模 B 案は振動レベルが高く予測されたことから、跡地活用想定区域に導入される施設規模において適切な計画、事業の実施が必要である。</p>
予測地点	現況	将来 (A 案)	将来 (B 案)																																																																									
T-1	45	47	48																																																																									
T-2	46	46	46																																																																									
T-3	41	42	43																																																																									
T-4	44	44	44																																																																									
予測地点	現況	将来 (A 案)	将来 (B 案)																																																																									
T-1	42	42	42																																																																									
T-2	45	45	45																																																																									
T-3	42	42	42																																																																									
T-4	44	44	44																																																																									
予測地点	将来 (A 案)	将来 (B 案)	要請限度																																																																									
T-1	47	48	65																																																																									
T-2	46	46																																																																										
T-3	42	43																																																																										
T-4	44	44																																																																										
予測地点	将来 (A 案)	将来 (B 案)	要請限度																																																																									
T-1	42	42	60																																																																									
T-2	45	45																																																																										
T-3	42	42																																																																										
T-4	44	44																																																																										

表 6-4(1) 環境影響の総合的な評価（日照障害）

環境要素	影響要因		調査項目	調査結果の概要	予測項目及び予測方法																						
日照障害	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変後の土地及び工作物の存在	(1) 自然的・社会的状況 ① 都市計画法に基づく用途地域 ② 建築基準法に基づく日影の規制基準	<p>(1) 自然的・社会的状況</p> <p>① 都市計画法に基づく用途地域 事業実施想定区域は第一種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域及び近隣商業地域に指定されている。 なお、新市営住宅（みずほ（西）地区）及び新市営住宅（みずほ（東）地区）は第一種低層住居専用地域に指定されているが、第一種中高層住居専用地域又は第二種中高層住居専用地域への都市計画変更が想定される。</p> <p>② 建築基準法に基づく日影の規制基準 「建築基準法に基づく日影の規制基準」が適用される。</p> <p>・ 建築基準法に基づく日影の規制基準 （低層住居専用地域）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">基準面</th> <th colspan="2">日影時間の限度</th> </tr> <tr> <th>5～10m</th> <th>10m超</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第一種</td> <td rowspan="2">1.5</td> <td rowspan="2">3時間</td> <td rowspan="2">2時間</td> </tr> <tr> <td>第二種</td> </tr> </tbody> </table> <p>（中高層住居専用地域）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">基準面</th> <th colspan="2">日影時間の限度</th> </tr> <tr> <th>5～10m</th> <th>10m超</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第一種</td> <td rowspan="2">4.0</td> <td rowspan="2">3時間</td> <td rowspan="2">2時間</td> </tr> <tr> <td>第二種</td> </tr> </tbody> </table>	項目	基準面	日影時間の限度		5～10m	10m超	第一種	1.5	3時間	2時間	第二種	項目	基準面	日影時間の限度		5～10m	10m超	第一種	4.0	3時間	2時間	第二種	<p>(1) 予測項目 ① 時刻別日影線 ② 等時間別日影線</p> <p>(2) 予測方法 新市営住宅（みずほ（西）地区）の配置、構造計画から、冬至日における時刻別日影図、等時間日影図を作成する方法とする。</p>
項目	基準面	日影時間の限度																									
		5～10m	10m超																								
第一種	1.5	3時間	2時間																								
第二種																											
項目	基準面	日影時間の限度																									
		5～10m	10m超																								
第一種	4.0	3時間	2時間																								
第二種																											

表 6-4(2) 環境影響の総合的な評価（日照障害）

予測結果の概要	評価結果の概要	必要な配慮事項																		
<p>いずれの複数案（住宅の構造・配置）も日影が及ぶ距離は新市営住宅（みずほ（西）地区）から最大約 100m であり、日陰の及ぶ範囲に大きな差はないが、住宅 A 案に比べ住宅 B 案は北側住宅に 1 時間及ぶ日影線の範囲が狭くなると予測された。</p>	<p>時刻別日影線、等時間日影線の予測結果は、住宅 A 案は住宅 B 案で大きな差はない。また、等時間日影線は住宅 A 案と住宅 B 案のどちらも「札幌市建築基準法施行条例第 5 条（日影による中高層の建築物の高さの制限）」における日影規制を満足しており、新市営住宅（みずほ（西）地区）の供用後において保全目標を満足すると評価される。</p> <p>・日照障害評価結果</p> <table border="1" data-bbox="678 584 1161 786"> <thead> <tr> <th>複数案</th> <th>敷地境界からの距離</th> <th>基準の適否</th> <th>日影時間の限度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">住宅 A 案</td> <td>5～10m</td> <td>○</td> <td>3 時間</td> </tr> <tr> <td>10m</td> <td>○</td> <td>2 時間</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">住宅 B 案</td> <td>5～10m</td> <td>○</td> <td>3 時間</td> </tr> <tr> <td>10m</td> <td>○</td> <td>2 時間</td> </tr> </tbody> </table>	複数案	敷地境界からの距離	基準の適否	日影時間の限度	住宅 A 案	5～10m	○	3 時間	10m	○	2 時間	住宅 B 案	5～10m	○	3 時間	10m	○	2 時間	<p>日影線は基準を満足するが、住宅 B 案に対し住宅 A 案は日影線が広く予測されたことから、新市営住宅は適切な設計、事業の実施が必要である。</p>
複数案	敷地境界からの距離	基準の適否	日影時間の限度																	
住宅 A 案	5～10m	○	3 時間																	
	10m	○	2 時間																	
住宅 B 案	5～10m	○	3 時間																	
	10m	○	2 時間																	